

教頭会報

栃木県公立小中学校教頭会

発行者 坂 本 弘 志

編 集 広 報 部

— も く じ —

◎会長あいさつ……………	1	◎令和7年度役員紹介……………	6
◎県教頭会の動き		◎特色ある学校……………	10
定期総会・講演会……………	2	◎地区だより……………	11
◎全国研究大会（茨城大会）……………	4	◎ひろば・編集後記……………	12

会長あいさつ

教頭会の今日的意義と未来への貢献

宇都宮市立旭中学校 坂 本 弘 志



本教頭会は、諸先輩方と会員の皆様の真摯な努力と弛まぬ研究の積み重ねを礎に、結成63年目を迎えました。

発足当時（昭和38年）を振り返ると、戦後の教育改革（6・3・3制など）が定着しつつも、高度経済成長期における担い手不足、「詰め込み教育」への懸念や学力格差、そして都市化・核家族化による地域・家庭の教育力低下といった新たな課題が顕在化していました。昭和33年に改訂された学習指導要領は法的拘束力を持つ教育課程編成の基準として、「基礎学力の充実」が重視され、「道徳の時間」が特設されました。また、人口増加に伴い、職員室には多くの若い教員が加わっていました。

現代、令和の時代に目を転じれば、私たちはコロナ禍を経験しました。この困難な状況は、GIGAスクール構想・教育のデジタル化を加速させ、学校行事等のスリム化にもつながりました。一方で、世の中はグローバル化、情報化の進展、生成AIなどの技術革新、少子化・人口減少による地域社会の変容といった多岐にわたる変化に直面し、まさに将来の予測が困難な時代となっています。教育現場では、いじめ防止や不登校対策、教員の働き方改革等が喫緊の課題であることは言うまでもありません。

教育の未来に目を向けると、次期学習指導要領の方向性として、令和6年12月に公表された中教審の諮問では、主に以下の4点が示されました。

- ・質の高い、深い学びを実現し、分かりやすく使いやすい学習指導要領の在り方
- ・多様な子供たちを包摂する柔軟な教育課程の在り方
- ・各教科等やその目標・内容の在り方
- ・教育課程の実施に伴う負担への指摘に真摯に向き合うことを含む、学習指導要領の趣旨の着実な実現のための方策

このように、過去、現在、そして未来の教育の動向を踏まえると、私たち教頭・副校長は、発足当時にも増して、会員同士がつながり、親睦を深めながら、互いに知恵を出し合い、主体的・協働的に研究を進め、教育の振興と教育諸条件の向上に寄与していくことが極めて重要であることがわかります。そして、この役割はこれからも変わらないと確信しています。

結びに、本教頭会は、その活動を通して会員の皆様一人一人のウェルビーイングの一助となれるよう努めてまいります。なお、本教頭会は令和9年度に関ブロ栃木大会を開催します。本年度、その準備委員会を発足させる運びとなっております。会長に就任いたしました私自身もまた、微力ではありますが、前会長や本年度役員、事務局、そして関係諸機関と手を携え、本県の教育発展のため全力を尽くす所存です。一年間、どうぞよろしくお願い申し上げます。

栃木県公立小中学校教頭会 定期総会

総会に初めて参加して

宇都宮市立宝木中学校 手塚 智久

今回「第63回定期総会並びに研修会」に参加させていただきました。県内全域から多くの先生方が参加されており、日頃の学校での取組などの情報交換を熱心にされている姿に、改めて自身の仕事に対する取組を振り返る良い機会となりました。



総会では、坂本会長より、令和6年12月に中教審から示された新学習指導要領の論点について、令和9年度に本県で行われる関ブロック栃木大会に向けた取組について、そして教師のウェルビーイングの実現に向けてのお話があり、令和7年度の活動方針が示されました。

研修会では、「子どもたちと教職員のウェルビーイングを高める学校づくり」という演題で、一般社団法人ライフ＆ワーク代表理事・OCC教育テック大学院大学教授の妹尾昌俊氏による講演が行われ

ました。講演の中で、小学校教諭の約41%が不眠症であるという驚きの結果が示され、寝不足はメンタルヘルスに悪影響を及ぼし、イライラしやすくなるという研究結果があるとのことでした。教職員のウェルビーイングが悪いと、子どものウェルビーイングにも悪影響が出るとの話を聞き、教頭として、教職員のウェルビーイングをどのように高めていくかが喫緊の課題であると改めて感じました。また、働き方改革の実践事例なども示していただき、すぐに学校で取り組める内容もあり、「子どものため」という本質を考えながら実践できればと思いました。大変有意義な研修会であり、教頭としての力を高めていく一助となりました。



総会に参加して

宇都宮市立富屋小学校 篠崎 淳子

令和7年5月27日(火)第63回定期総会並びに研修会が開催されました。

坂本弘志会長のあいさつでは、過去と現在の時代背景と教育について語られました。昭和の高度経済成長期に教育が目指したものと現在である令和の時代に目指しているもの、新型コロナウイルスが教育に及ぼした影響などについてお話いただき、改めて現代社会が抱えている問題やそれに伴う多岐にわたる教育課題について考えさせられました。さらに、次期学習指導要領に関する令和6年度中教審諮問について触れられ、未来の目指すべき教育について思いを巡らせるよい機会となりました。教頭会では令和9年度の関東ブロック栃木大会が予定されており、それに応じて今年度から準備委員会を発足させること、発表に向けて会員一人一人が主体的に研究に関わり、互いに知恵を出し合って協働的に組織的に研究を推進するためには、会員相互の連携を図ることが大切だと結びました。研修会では、妹尾昌俊氏より、「子どもたちと教職員のウェルビーイングを高める学校づくりー働き方・人材育成・家庭や地域との関係づくりー」の演題でご講話いただきました。業務の精選は、やること自体が目的化していないかを確認し、改めて目的・効果・代案などについて考えていけばよいという具体的なアドバイスをいただきました。人材育成では互いを知ることの重要性、同僚の得手不得手、趣味を活かしたモデルについて紹介されました。今回、役員として定期総会の運営に携わらせていただきましたが、事務局をはじめ、役員の方々が力を尽くし、自分の役割を粛々と遂行する姿を近くで拝見することで大きな学びとなりました。



講演会

講演会を通して

宇都宮市立御幸小学校 細 越 淳

講師の妹尾昌俊先生を迎える役目だった私は、会場に着くまでのタクシーの中で、「全都道府県を講話で回っていて充実している」というお話を聞きました。さぞかし、お忙しいだろうと想像していると、家庭のこと、趣味のことをにこやかにお話されていました。まさに、「ウェルビーイング」。第4期教育振興基本計画のコンセプトの一つでもあるこの言葉を、私は、管理職としてどれだけ意識して仕事をしていたのだろう、と自問自答しながら、その後の講話に耳を傾けました。

妹尾先生は、我々管理職の大きな課題である「働き方改革」について様々な角度から切り込み、お話しくださいました。

まずは、時間。在校時間の上限を守ることを目的にすると、“残業の见えない化（持ち帰り）”“あきらめモード”“熱心な先生の仕事の増加”などが複雑に絡み合い、混沌とした毎日になってしまいがちだということでした。

次に、子どものウェルビーイングと教職員のウェルビーイングは表裏一体であること。全国公立小学校教諭の約41%が不眠症だというデータを示し、不眠症は、苛立ちを招き、教師と児童生徒、教師間での不和が起こりやすくなるということでした。例えば、川上康則氏の提唱する“教室マルトリートメント（造語：適切ではない指導）”が、日常的に子どもたちの心を知らず知らずのうちに傷つけているような行動が見られることもあるということです。教育的愛情を深く持っている我々なのに…本末転倒です。

そのような中、いくつか示された改善ポイントを用い、自分自身で実行しようと思うことがありました。

一つは「ノウハウ（方法論）」よりも「ノウフー（人を知る）」。

職員一人一人の得意なこと、好きなこと、人に教えられることなどを紹介し合う方法を考え、“人となり”を知り、職員同士が自然と学び合える雰囲気を作ること。

もう一つは、仕事の「大幅な見直し」。我々の仕事は、全てに教育的意義が見出されてしまうということでした。そこで、「マイナス仕事（教師だけが懸命になり、やればやるほど子どもにマイナス）」「ファッション仕事（大した成果を生まない自己満足仕事）」「マスト仕事」「ベター仕事」に分類し、①目的の再認識 ②子どもや教師への効果の程度 ③代替案への切り替え をポイントに職員研修を行いたいと考えています。

働き方改革の先陣を切れるよう、私自身の仕事の仕方も大きく見直し、子どもたちも教職員も「ウェルビーイング」を感じられる毎日にしたいと強く思える時間でした。



全国研究大会 茨城大会報告（全体会）

「品性」「個人」を大切に、そして「情熱」をもって

日光市立轟小学校 古 島 由美子

令和7年度の記念講演は、「仲間とともに未来へはばたく人財育成のために」を演題とし、北茨城市出身のアーティスト石井竜也氏にお話をいただきました。

小学生時代は、絵が好きで、石の文字を手でなぞるのが趣味という個性的な面を持っていて、先生方の頭を1番悩ませていたであろうと語られました。東日本大震災で流されてしまった漁港の人・風景・そのときの気持ちなどから「郷土愛」について教えてくださいました。「協働」では、米米クラブの多様なスタッフとの経験から、教頭の立場としてまとめていくためのヒントを、「人財育成」では、現在「個の時代」となっていて、その「個」を大切にしてほしいこと、教頭として「品性」を教えてほしいこと、情熱をもって先生方を主導してほしいことなどを、私たちに伝えてくださいました。

また、現在の制限の多い教育現場ですが、子供たちは情熱の中で感じることもあり、その感じる一瞬を気付けると感動すること、そして先生方がうまく情熱を盛り上げられるように教頭はそっと肩に手を添えて力を入れずに力を出させるというのが大切だろうとお話し、地域や保護者に毅然とした態度で「子供の質を高めたい」と伝えてほしいとエールをくださいました。日本の歴史に裏付けられた教育を、「品」と「個人の自由」をキーワードとして、進めてほしいとも語られました。

終始インタビュアーとの楽しいやりとりで、熱い思いを私たちに届けてくださいました。最後には、即興で歌を歌っていただき、温かい余韻の中、今後情熱をもって教育活動を頑張りたいと思いました。

全国研究大会茨城大会に参加して（シンポジウム）

佐野市立南中学校 馬 場 秀 典

今年度の全国研究大会のシンポジウムが、「郷土を愛し 協働して未来にはばたく人財を育む 活力ある学校づくりの推進」というテーマのもと、3名のシンポジストをお迎えして行われた。

コーディネーターである放送大学准教授、小林祐紀氏はまず、本テーマが“地域から未来を見据えた人財を育成する学校づくり”を目指すものであることを前提に、予測困難な現代を生き抜くためには、変化を恐れずに挑戦し、新しい価値観や知識を積極的に取り入れることができる、「自律した学習者」を育成する学校作りが必要であることを述べ、各シンポジストに意見を求められた。

常磐大学特任教授富田敬子氏からは、長く国連で勤務された経験から、未来の担い手を育むためには、グローバルな視点が必要であることを強調した上で、海外から見た日本人の存在感の薄さを指摘し、発言力・発信力、オリジナリティ等の育成は不可欠である、という話がなされた。

水戸ホーリーホック取締役GMの西村卓朗氏からは、組織マネジメントの視点からの人材育成の話がなされ、特に重要な観点である「人間力」の育成のために大切な姿勢について、「人は相手に何を言われたかより、どんな気持ちにさせられたか、を覚えている。」という示唆に富んだ言葉を述べられた。

(株)結城麦酒代表取締役塚越敏典氏は、地元中学校の元校長であり、地域のためにクラフトビール会社を興した経験から、郷土愛を育むためには自己肯定感の向上と失敗を恐れず挑戦する姿勢が必要であると、ユーモアあふれる熱い言葉で話され、「自分を好きなら、自分を育てた風土・環境を愛するのは当たり前」という印象に残る言葉を述べられた。

全体を通して、子どもたちの自己肯定感・自己効力感を育成することが、自らの力でコミュニティや社会を創る力につながることを、大人が実感し、確信をもって伝えられる学校・地域・社会になっていくことが必要であると強く感じる事ができたシンポジウムだった。

茨城大会報告（分科会）

全国研究大会茨城大会 特別Ⅱ分科会に参加して

足利市立第三中学校 島田 光 正

特別Ⅱ分科会に参集型で参加させていただきました。この分科会では「魅力発信で教員不足解消を～今 副校長・教頭としてできること～」をテーマに木内酒造株式会社の木内敏之氏、教育研究家の妹尾昌俊氏より講演をいただき、それぞれグループ協議を行うという流れでした。

木内氏の業務は、学校教育とはかけ離れたものではあるが、地域資源の活用や人材の育成、様々な事業展開、未来を見据えたビジョンなど、教頭として大変参考になる示唆に富んだお話を聞くことができました。中でも印象に残ったことは、「興味を持たせる人づくり」が大事だと仰っていたことです。現代の子どもは主体性があまりないと言われていますが、そういったことを念頭に置いて関わっていけば主体性を持ち、ひいては教員になりたいと思う生徒も増えていくのではないかと感じました。

妹尾氏からは、教員不足の解消のためには、魅力発信の前に不安や抵抗感を低くすることが必要だと仰っていました。「今いる教員がハッピーなら自然と人材は集まってくる。」「教員の資質能力を上げるのではなく、チーム力を上げる。」という言葉に納得するとともに、そういった職員室を目指さなければならぬと思いました。

グループ協議では、全国各地の先生方と話し合いましたが、どの地域も同じような課題や悩みを抱えており、共感するとともに刺激を受けることができました。教員不足解消のためには地域や保護者の協力も仰ぎながら子どもとの関わりを密にしていくことが大事ではないかとまとめました。

このような充実した研究大会に参加させていただき大変ありがとうございました。

第67回全国公立学校教頭会研究大会「茨城大会」 分科会提言を終えて

宇都宮市立瑞穂野中学校 菊池 睦

令和7年8月1日(金)第1A分科会「教育課程に関する課題」において、宇河地区中学校副校長会・教頭会で研究してきたことの主に2年次の内容を中心に発表させていただく機会を得ました。地区の研究部の先生方を中心に何度も推敲を重ね、昨年度県の研究発表大会でも発表させていただき、その原稿をもとに、さらに全国教頭会研究部の先生方からも助言を得て、発表テーマも『教育課程の工夫改善と教頭としての役割ーコロナ禍を超えて持続可能な教育課程へー』とし、当日の発表を迎えることができたことに感謝しております。



本研究を通して、コロナ禍で得た知見を生かした各学校での実践成果と課題を整理・検証することで、今後、学校業務をどう適正にしていくか、また、どのように働き方改革を進めていくかのヒントを発表の場で共有することができました。また、副校長・教頭は教職員のリーダーとして、学校長を補佐しつつ、ファシリテーターとして役割を果たし、チーム学校としての機能を高めていくことも持続可能な教育課程の編成には必要不可欠であることが改めて確認できました。

全国の副校長・教頭先生方の意見をいただくなかで、今後はより一層組織的・機能的なマネジメント体制を校内で構築していくこと、そのためにも、生徒のウェルビーイングを高めつつ、保護者、地域住民、そして、教職員、何よりも我々副校長・教頭のウェルビーイングを高めるチーム学校づくりを推進していきたいという気持ちを新たにすることができたことが大きな成果です。



役 員 紹 介



会 長
坂本 弘志
(宇都宮市立旭中)

この度、会長を拝命いたしました。微力ながら、事務局、前会長及び本年度役員、そして会員の皆様と力を合わせ、教員生活最後の一年間、精一杯努めて参ります。よろしく願いいたします。休日は、ドライブで全国各地を巡り、その土地ならではのグルメを嗜むのが楽しみです。



副会長
鈴木 淳司
(宇都宮市立西が岡小)

今年度、副会長を務めさせていただくことになりました。坂本会長、役員の先生方、事務局の方々と連携しながら、教頭会の運営に尽力したいと思います。休日は、季節に合わせて草花の植栽を楽しんだり、長年飼育しているメダカの世話をしたりしています。1年間、どうぞよろしくお願いいたします。



副会長
前原 義之
(宇都宮市立雀宮東小)

今年度、副会長を務めさせていただくことになりました。坂本会長を補佐し、事務局と連携して教頭会の運営に努めてまいります。休日の楽しみは相変わらずスポーツ観戦です。アイスホッケー、サッカー、バスケットボールの会場に足を運び、楽しんでいます。1年間どうぞよろしくお願いいたします。



副会長
大牧 良和
(宇都宮市立国本中)

今年度、副会長を務めさせていただくことになりました。坂本会長を補佐し、役員、事務局の先生方と共に、より円滑な本会の運営に努めていきたいと思ひます。微力ではございますが1年間どうぞよろしくお願いしします。ここ数年、柑橘栽培にはまってしまい、様々な種類のみかん達を毎日見守っています。



副会長
青柳 晋作
(真岡市立山前小)

今年度、副会長を務めさせていただくことになりました。役員・事務局の方々と連携しながら、運営に携わっていきたく思ひます。休日は、本年1月にオープンした真岡市複合交流拠点施設 monaca の図書館に行き、好きな作家の本を借りて読書をしています。1年間よろしくお願いしします。



副会長
齋藤 信之
(那須烏山市立烏山中)

今年度、副会長を務めさせていただくことになりました。教頭会の運営が円滑に進むよう、坂本会長をはじめ、役員の先生方や事務局の皆様と連携しながら取り組んで参ります。休日にはなかなか遠出はできませんが、美しい景色を写真に収めるのが楽しみの一つです。1年間、どうぞよろしくお願いしします。



幹事長
山野井純夫
(宇都宮市立上河内中)

昨年度に引き続き、幹事長を仰せつかりました。会員の皆様をはじめ、事務局や役員の皆様と連携を図りながら、教頭会の発展のため尽力していきたく思ひます。今年こそ脱メタボに向けたジョギングや映画鑑賞、そしてJ2復帰を信じて栃木SCの応援が休日の楽しみです。どうぞよろしくお願いしします。



庶 務
栗田 康弘
(宇都宮市立明保小)

昨年度に続き、庶務を務めさせていただきます。会員の皆様をはじめ、事務局や役員の皆様のお役に立てるよう、司会進行等の仕事に精一杯取り組ませていただきます。微力ではございますが、どうぞよろしくお願いしします。最近の休日は、庭木の手入れや地元での散策などを楽しんでいます。



庶 務
小室 文代
(宇都宮市立泉が丘中)

今年度、庶務を担当させていただきます。会員の皆様をはじめ、事務局や役員の皆様と連携を図りながら、進行等を精一杯努めてまいります。微力ではございますが、よろしくお願いしします。休日は、神社仏閣を巡り、御朱印を頂いています。



会 計
田中美由紀
(宇都宮市立戸祭小)

本年度も会計を担当させていただくことになりました。微力ではございますが事務局や役員の皆様と連携を図りながら、精一杯努めて参りたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。休日は、溜まってしまった不用品を少しずつ片付けています。家の中が片付きすっきりとした空間が広がると、心も軽やかになるようです。



会 計
野口 綾子
(宇都宮市立今泉小)

今年度より、会計を担当することになりました。教頭会の運営に関わる機会をいただき、感謝申し上げます。事務局や役員の皆様と連携し、教頭会の円滑な運営のため精一杯努めてまいりますので、よろしくお願い致します。休日は、スポーツをしたり、おいしいものを食べたりしてリフレッシュしています。



全国総務・調査部長
今野 守
(上三川町立本郷小)

昨年度に引き続き、全国専門部員の職務を拝命いたしました。休日は、趣味のゴルフ練習として、ショートコース巡りをしています。思った通り行かずに毎回修行の気持ちで取り組んでいます。微力ではありますが県教頭会のために、全力を尽くす所存です。どうぞよろしくお願い致します。



全国広報部長
鈴木 克明
(宇都宮市立晃陽中)

今年度、全国公立学校教頭会広報部を任じられ。重責を感じています。多くの先生方と交流を深めながら、全国の副校長・教頭先生に向けた広報活動の充実に努力してまいります。どうぞよろしくお願い致します。

休日は、専ら小説を読みながらまったりと過ごしていることが多いです。心も体をほっこりと癒し、翌日からの激務にエネルギーをチャージする毎日です。



研究部長
加藤 雅継
(宇都宮市立清原中)

清原中に着任し、2年目を迎えました。坂本会長の下、研究を深めていければと思っております。よろしくお願い致します。先日、話題になっていた韓流ドラマ、「涙の女王」を見ることができました。その物語にハラハラし、涙し、充実した時間を過ごすことができました。他のドラマも見て過ごしたいという、休日の夢をもっています。



調査部長
鈴木 則子
(宇都宮市立星が丘中)

昨年に引き続き、調査部長として専門部役員を務めさせていただくことになりました。微力ではございますが、会員の皆様をはじめ、事務局や役員の皆様と連携を図りながら尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。週末は積極的に外へ出て、気分転換とリフレッシュを心がけています。



広報部長
佐々木美和
(宇都宮市立晃宝小)

今年度、広報部長として専門部役員をお引き受けすることになりました。微力ではございますが、事務局・役員の皆様と連携を図りながら、教頭会報の発行に向け、精一杯努めて参りたいと思います。休日は、体のメンテナンスの時間が長くなりつつありますが、おいしいものを食べたり、日帰り小旅行をしたりして楽しんでいます。



要請部長
高梨 修
(宇都宮市立新田小)

今年度、要請部長として専門部役員をお引き受けすることとなりました。事務局や役員の皆様と連携を図りながら、会員の皆様の「現場からの声」を、要請活動に生かしてまいります。よろしくお願い致します。休日の過ごし方ですが、秋冬はスキーやキャンプ・それ以外はドライブなどをして、できる範囲でリフレッシュしています。



I T部長
若林 直行
(宇都宮市立西小)

今年度I T部を担当させていただくことになりました。会長を支え、会員の皆様方のご支援・ご協力をいただきながら、子供たちにとっても教員にとっても「魅力ある学校づくり」に取り組んでまいります。休みの日は街歩きや山登りをしています。今後とも、ご支援・ご協力の程よろしくお願い致します。



副幹事長
小林 昭宏
(佐野市立犬伏小)

役員の先生方、事務局の皆様と連携をしながら、教頭会の活動を真摯に取り組んでいきたいと思ひます。私は、宇宙少年団佐野分団で、月1回程度、宇宙飛行士を目指す科学好きな子供たちを集め、水ロケットやモデルロケットを作ったり飛ばしたりする活動を行っています。子供たちの未来のために活動することはとても楽しいです。



幹事
庄司 由夏
(宇都宮市立横川中央小)

初めて幹事を務めさせていただくことになりました。微力ではありますが、教頭会の充実・発展のために精一杯取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。休日は、ヨガやジム、ゴルフなど運動を楽しんでいます。幸せホルモンが分泌されリフレッシュし、仕事に前向きに取り組めます。



幹事
渡邊 誠
(宇都宮市立田原中)

今年度、初めて幹事を務めさせていただくことになりました。微力ではありますが、教頭会の活動の充実に向け、皆さんと協力しながら、精一杯取り組んでまいりたいと思ひます。休日は、音楽鑑賞、楽器演奏、スポーツ観戦、ドライブ、食べ歩き等、楽しんでいます。



幹事
須甲有美子
(上三川町立本郷北小)

昨年度に引き続き、幹事を務めさせていただくことになりました。楽しみは、ライブに行き、生の音楽を聴くことです。サザン、ミセス、あいみょん、ゆず…と心が揺さぶられ、幸せな気持ちになりました。今年度も子供たちと職員が豊かな生活ができるように頑張りたいと思ひます。教頭会においても、微力ではありますが課題の解決に取り組んでいきたいです。よろしくお願いいたします。



幹事
青木 高訓
(鹿沼市立北犬飼中)

今年度、初めて幹事を務めさせていただくことになりました。休日に楽しんでいることは、家族でゆったり週末ライフを送ることです。温泉やウォーキングを楽しんでいます。微力ではありますが、先輩方に御指導頂きながら、昨今の教育上の課題の解決に取り組んでいきたいと思ひます。よろしくお願いいたします。



幹事
櫻井 渉
(真岡市立物部小)

今年度、初めて幹事を務めさせていただくことになりました。休日、時間とれるときには粘土を成形して陶芸を楽しんでいます。手びねりやろくろを使い、普段使いに耐えられる器が作れるよう努力しています。本会の発展のために、微力ですが尽力してまいります。よろしくお願いいたします。



幹事
加藤 孝之
(壬生町立羽生田小)

今年度、初めて幹事を務めさせていただくことになりました。休日の楽しみは、「50肩の痛みが早く治りますように」と祈りながら、スーパー銭湯に行くことです。道中のドライブで気分を発散し、銭湯ではサウナ、水風呂、外気浴を繰り返す「サ道」に励んでいます。その後、温泉にゆっくりつかり肩をリフレッシュしています。50肩が早く治り、真の楽しさを早く手に入れたいです。



幹事
西海 寿
(那須塩原市立西小)

今年度も幹事を務めます。微力ではありますが、教頭会のために尽力してまいります。私は、週末にサ道をたしなんでいます。サウナ、水風呂、外気浴を繰り返し、いわゆる整うという状態へ陥りリフレッシュしています。そのまま家まで水分は我慢。夕飯のビールを飲んで至福のときを迎えます。



幹事
根岸美登里
(足利市立青葉小)

一昨年度と同様、幹事を務めさせていただくことになりました。夏が大好きな私は、夏の風物詩にはテンションが上がります！夏の休日でのウィンドウショッピングや友人との会食も楽しんでいます。そして、夜、蛙の合唱を聴く時間、風鈴の音色に癒やされながら過ごす時間は、最高に贅沢な時間です！



**研究副部長
細越 淳**
(宇都宮市立御幸小)

今年度、研究副部長を務めさせていただきます。出身は、岩手県宮古市。自宅の目の前が海という場所で育ちました。夏は、水着一丁で浜へ行き、真っ黒になっていました。今年度は、皆様と充実した研究ができますよう、努力してまいります。一年間、よろしくお願いいたします。



**研究副部長
鈴木 葉子**
(宇都宮市立陽光小)

今年度も研究副部長を務めさせていただきます。休日は、庭の草取りをしながら可愛い小さな花や、変わった形の葉を見付け、自然の面白さを感じています。つらい草取りがちょっと楽しくなりありがたいです。先輩方にご指導いただきながら引き続き務めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



**調査副部長
吉田 保**
(上三川町立坂上小)

昨年度に引き続き、調査副部長を務めさせていただくことになりました。調査等を通じて、副校長・教頭の現状や実態を把握し、先生方へ調査結果をお伝えできればと思います。休日は、映画鑑賞をして楽しんでいます。どうぞよろしくお願いいたします。



**調査副部長
今泉 剛**
(宇都宮市立横川中)

教頭職2年目を迎えています。土日に残務整理をすることもあります。最近では車を買って替えたので、ドライブを楽しんでいます。若手職員に教えてもらい、スマホと車をBluetoothでつないで、音楽を聴きながらリラックスしています。まだ遠出をしていませんが、海や山へも行ってみようと考えています。



**広報副部長
君島 直人**
(宇都宮市立宮の原小)

今年度、広報副部長を担当させていただきますことになりました。事務局や部員の皆様と協力して、会報の発行に努めていきたいと思っています。休日は時間があれば、サッカー観戦に出かけていますが、多くの日は伸び放題の自宅や実家の草木と格闘し、雑草に埋もれた家庭菜園で「宝探し!」を楽しんでいます。



**広報副部長
篠崎 淳子**
(宇都宮市立富屋小)

今年度より、広報副部長を務めさせていただくことになりました。情報交流の場となる会報誌作成のため、微力ではありますが尽力して参ります。休日は、Bリーグ観戦で「ココロ、たぎる」時間を過ごすなど、できるだけ日常から離れるようにしております。



**要請副部長
町田 賢一**
(那須町立東陽小)

今年度、要請副部長を担当することになりました。役員の先生方及び高梨部長と協力して、適切な要望活動ができるよう尽力します。休日は、庭の手入れに多くの時間を費やしています。芝刈りや庭木の剪定などやらなければならないことが多く、時間を見つけては汗を流しています。1年間よろしくお願いいたします。



**I T副部長
隅内 健二**
(宇都宮市立城山中)

今年度より、I T副部長を務めさせていただきますことになりました。県や地区の活動を迅速にお伝えできるよう努めます。大学時代に友人から唐沢山城跡散策に誘われたことをきっかけに、休日は、縄張りを思いながらお城を巡ります。近年は、高知城や松江城まで足を伸ばしています。



**I T副部長
手塚 智久**
(宇都宮市立宝木中)

今年度より、I T副部長を担当させていただくことになりました。教頭会の活動に微力ながら貢献できればと思っております。休日は、宇都宮ブルックスの試合がホームゲームの時にはできる限り応援に行き、ビールを飲みながら盛り上がっています。

「GO All OUT」 チーム清原が一丸となった取組

宇都宮市立清原中学校 矢野 学

清原中学校は、宇都宮市内の東部に位置し、国内最大級の内陸工業団地を擁している。さらに、テクノポリスの指定に伴い、住宅地が広範囲に造成され、年々居住地が増加し、今年度は全校生徒860人の大規模校である。LRTの開通や、ゆいの杜小学校の開設もあり、今後、さらに生徒数が増えていき、令和10年度には1000人を超え、県内最大の生徒数になる見込みである。

清原中学校は、学校スローガンを掲げ、全職員、生徒、保護者、地域が一体となって教育活動に取り組んでいる。その学校スローガンは、『GO All OUT ～一生懸命はかっこいい～』である。「GO All OUT」は「全力を尽くして行う」という意味で、「どんな状況にも負けず目標達成に向け、一生懸命頑張ってほしい、そして、授業や学校行事、部活動などを通して、その頑張る姿こそが、かっこいいと自他ともに認め合い、学校生活でしか味わうことのできない感動に出会いながら、ともに成長してほしい」という思いが込められている。

5月の体育祭では、雨上がりのグラウンドを全職員で水取を行い、整備を実施していた中、それを見た生徒の自主的な手伝いの輪が広がり、皆の協力のおかげで予定通りの時間に実施することができた。その体育祭では、生徒は全力で一生懸命取り組み、多くの生徒がその姿に対して全力で応援し、大いに盛り上がった。まさに「チーム清原」が一丸となっていることを実感できるものであった。

「チーム清原」の教職員の明るい雰囲気は、生徒にも保護者、地域にも伝わり、よい雰囲気の中で、教育活動をすすめている。



体育祭の時に全職員で撮った写真。いつでも目に付くよう職員室後方に掲示。

地域の強みを生かし、本物を体験する活動を通して地域への愛着

大田原市立佐久山小学校 安宅 伸太郎

本校では、「一人一人が輝き笑顔あふれる学校」を合い言葉に、地域の強みを生かした、ダイナミックな教育活動を展開しています。その代表的な行事が「知ってるかい佐久山・福原」です。6年生を中心に縦割り班を編制し、協力して地域に点在する歴史的建造物や名所巡りをします。地域学校協働活動推進員の方を中心に地域のボランティアの方にも協力をいただき、各所で説明を受けたり、わくわくするようなミッションをこなしたりしながら、地域を散策します。この活動が、地域への愛着へとつながるとともに、総合的な学習の時間の探究的な学びへとつながっていきます。



また、5年生は社会科の授業の一環で「田植え」「稲刈り」を体験します。そこまでなら、やっている学校も多いかもしれませんが、本校では、収穫後、昔の農機具を使って「脱穀」までも経験します。ここでも多くのボランティアの方に協力していただき、地域の特徴の一つである、農業について理解を深めるとともに、生産者の苦労や食の大切さについても学ぶ機会となっています。

さらに課外活動として、全国でも類を見ない「雅楽部」があります。定期的に地元のお寺の住職さんからの御指導を受け、お彼岸の時期や地区の産業文化祭で演奏をしています。

このように本校では、地域の強みを生かした本物に触れる教育活動が数多くあります。自分のふるさとの愛着をもつことで、将来の地域の担い手を育成し続けています。



下都賀地区小・中・義務教育学校教頭会の取組

下都賀地区小・中・義務教育学校教頭会長 伊 東 宏 隆

下都賀地区小・中・義務教育学校教頭会（以下、地区教頭会）は、小学校73校、中学校30校、義務教育学校2校の計105校の教頭109名（大谷東小と小山第三中、絹義務教育、南河内小中は教頭複数配置）で構成されています。

本地区教頭会の研究は、Aブロック（小山市）、Bブロック（栃木市）、Cブロック（下野市、壬生町、野木町）の3ブロックに分かれて行っており、それぞれのブロックが互いに連携を図りながら進めてきました。全国公立学校教頭会の第13期全国統一研究主題である「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」を受け、小学校では「未来を切り拓く力を育む教育課程の編成・実践・改善ーグローバル化や情報化社会への対応力を育む教育課程の研究と実践ー」、中学校では「未来を切り拓く力を育む教職員の専門性の育成ー教職員研修のあり方と働き方改革の研究と実践ー」をテーマに研究に取り組み、本年度が3年目となります。2年目までの研究結果から課題を洗い出し、教頭としての関わりについてさらに研究を深めているところであり、11月21日に行われる第63回研究大会で小学校は小山市が、中学校は栃木市がその研究成果等を発表する予定です。研究大会以降は、全公教の次年度から始まる第14期の研究に向けて、主題に迫る新たな2つの視点「持続可能な社会の創り手の育成」「ウェルビーイングの向上」について、各校の現状把握を行なうなど、次への準備を進めていきます。

危機管理への対応、働き方改革、教育DXの推進、部活動の地域移行など様々な課題が山積していますが、これらの課題に適切に対応するため、今後も、地区教頭会としての研究をさらに深めていきたいと思ひます。また、一人職であるが故に、地区教頭会が情報交換やコミュニケーションの場として貴重な機会となっています。有意義な会となるよう皆で協力しながら取り組んでいきたいと思ひます。

塩谷南那須地区小中学校教頭会の取組

塩谷南那須地区小中学校教頭会長 齋 藤 信 之

塩谷南那須地区小中学校教頭会は、令和6年4月に塩谷地区小中学校教頭会と南那須地区小中学校教頭会が統合され、今年で2年目を迎えました。現在、矢板市8校、さくら市8校、那須烏山市7校、塩谷町4校、高根沢町8校、那珂川町5校、県立高等学校附属中学校1校の計41校で構成され、教頭44名が所属しています。

令和5年度から始まった第13期全国統一研究主題「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」に基づく研究において、旧塩谷地区教頭会では「教育行財政に関する課題」、旧南那須地区教頭会では「子供の発達に関する課題」にそれぞれ取り組んできました。その流れを受け、統合初年度となる昨年度からは、「教育行財政に関する課題」を矢板市・さくら市・高根沢町が担当し、「魅力ある教育環境の創造に向けて ～地域・教育行政との協働～」というテーマで研究を進めています。一方、「子供の発達に関する課題」は那須烏山市・塩谷町・那珂川町が担当し、「小中一貫教育の推進について ～学びの連続性を踏まえた指導・支援の充実を目指して～」をテーマに取り組んでいます。

いずれの課題においても、各市町の研究部員を中心に、各校の取組を参考にしながら研究を進めており、最終年度となる今年度は、これまでの成果と課題を整理・分析し、研究の深化を図っているところです。

今年度は新たに9名の会員を迎えましたが、学校の統廃合が予定されている地域もあり、今後は会員数の減少も懸念されます。多くの学校が教頭一人体制である現状や、各校が抱える教育的課題の多様化を鑑み、教頭同士のつながりを大切に、会員相互の連携を深めながら、教頭会の運営に努めていきたいと考えています。

今後も、魅力ある学校づくりの推進や、学びの連続性を踏まえた効果的な指導・支援の在り方に関する研究を進めるとともに、教頭としての資質・能力の向上を図り、未来を創造する子供たちの育成に力を尽くしてまいります。



父の趣味

宇都宮市立横川東小学校 佐山 史子

父の趣味は盆栽で、庭には園芸店さながらにサツキの盆栽がありました。他にも牡丹に岩松、松や柿の木等もあり、仕事から帰るとたっぷり水やりをし、休日は、花の手入れ。たまの外出も花木センターと常に植木のことばかりの人でした。そのため、子供の頃の私は植木や植物が大嫌いでした。

今の私は、時間ができると庭の手入れをする日々です。ガーデニングというにはほど遠く、雑草を抜いたり伸びすぎた枝を切ったりしています。庭には手がかからないという理由で選んだローズマリーやラベンダー、ラムズイヤー、アリッサム、クリスマスローズが育っています。ゼラニウムにスズラン、スイセンは勤務していた学校と縁があり植えました。絵本を読んで種から育てたルピナス。息子がコンクールのご褒美でいただいたブルーベリーが今年はたくさん実を付けました。入学祝でいただいたハナミズキは大きく育ち、毎年花を咲かせるようになり庭に木陰を作っています。こぼれ種から意図せず芽が出て花が咲くなど、季節によって変わる草花を楽しんでいます。あれほど植物嫌いだった私がせっせと世話をしているのは、少なからず父の影響があると思っています。

つながりを未来へ

日光市立今市第三小学校 片桐 亘博

まだ冷たい風が吹く三月、前任校の小来川小中学校が閉校となった。清流黒川の流れる大自然の中で、地域の愛情をたっぷりと受けて育った11名の小学生たちは、4月から日光市最大の小学校へ統合となった。

地域の学校がなくなる。それは、子供たちが、保護者が、学校を支えてくれた地域の方々が、毎日のように顔を合わせてきた場所がなくなるということである。学校と共に育ってきた地域住民にとって、本当に寂しい気持ちで閉校を受け止めたのであろう。閉校記念式典での実行委員長の言葉が今でも忘れられない。「学校を守ってあげられなくて、ごめんな。」

桜の開花が始まった4月、11人と私は今市第三小学校にやってきた。にぎやかさに耳を覆う子、馴染めずに涙を浮かべる子、大勢の友達との接し方に戸惑う子。初めはどうなるかと心配したが、統合先の子供たちの温かさと思いやりに支えられ、前を向き始めた。子供同士の力って素晴らしい。そして、地域も変わった。「学校がなくなっても、子供がいなくなるわけじゃない。」と、お祭りや公民館子供講座で「つながりの火」を消さない取組が始まった。

小来川地区を学区に加え、今市第三小学校490名の子供たちは、今、新たなつながりを楽しんでいる。

朝のひととき

益子町立七井中学校 大畑 信行

年を重ねるごとに早起きが習慣となっている。朝の静けさの中で過ごす時間は、心を落ち着け日々の活力を与えてくれる。

朝のコーヒータイムでは、ハンドドリップで淹れるコーヒーの豆を挽くときの香り、湯を注いだときの香りが、目覚めたばかりの頭をすっきりとさせてくれる。コーヒーの味が毎日違ってしまふところが、手作業ならではの魅力である。

コーヒーを片手に新聞の時事欄に目を通すひとときも欠かせない。特にお悔やみ欄は、地域に暮らす人々の人生やつながりに思いを馳せる時間となっている。

休日になると、草刈りと読書の時間が増える。草刈りは農村部に住む者にとっては欠かせない作業となっている。我が家の周りは丘陵地域で草が多い。早朝の涼しい時間帯は、暑さを避け効率よく作業を進めることができるゴールデンタイムとなっている。

読書の楽しみも少し違った形になってきている。老眼で字を見るのが大変になってきた今では、図鑑のような大判の本を広げ、鮮やかな写真や詳細なイラストを眺めている。ページをめくるたびに新たな発見があり、知識が広がる喜びを感じている。

草花の手入れや野菜栽培、自然観察や散歩…。まだまだ朝のひとときの過ごし方はいくらもある。

編集後記

今年は梅雨が短く、暑くて長い夏がようやく終わり、秋の気配感じる今日このごろ、会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

今号では、全国研究大会茨城大会の報告や第63回定期総会の様子を中心に編集しました。当会報が少しでも皆様の教頭業務の参考になれば幸いです。末筆ながら、お忙しい中、原稿をお寄せいただいた皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

(佐々木)